

こばやしじょせい

小林女声コーラス

昭和 50 年に結成され、現在、池田順子代表（2 列目の右から 5 番目）を始めとする 24 人で活動。コンサートへの出演だけでなく、管内福祉施設への慰問や市内保育園に訪問など、歌を通じて地域の人との交流を図る。

歌い続けて 50 年。

いつまでもこの歌声を――

女性ならではの優しさと温かさを声で奏でる小林女声コーラスが、今年で結成 50 年目を迎えた。これまで「NHK・BS日本のうた」に出演したほか、管内福祉施設への慰問活動など多くの人に歌声を届けてきた。

「歌を通じて、同世代の人たちだけではなく、年配の人から子どもまで交流したい」と代表の池田順子さんは活動への想いを話す。

現在、40代から90代の24人で活動を行う。コンサートへの出場数は減ったものの、練習量は変わらず月3回。パートごとの練習や全体で声を合わせ、5月に開催される「県おかあさんコーラスフェスティバル」に向けて歌声に熱が入る。「発表の場があるからこそ、やりがいに感じる。ほかの団体の姿も刺激になります」と、これまで続いてきた理由を笑顔で話す。

しかし、ずっと順調にこれたわけではない。コロナ禍は彼女たちの活動にとって最大の危機となった。

「いつ再開できるかも分からず、このまま解散すると思っていた」と池田さんは、当時の不安を話す。

それでも活動を再開できたのは「歌が好きだから活動を続けたい」という団員の声があったからだ。

団はマスクを付けて、約3カ月ぶりに練習を再開。そこには、以前の歌声と笑顔が戻っていた。

「コロナ禍をみんなで乗り越えたからこそ、さらに絆が強まった。グループの輪が大きくなっているのを感じる」と池田さんは話す。

紡いできた絆で、さらに磨きがかかった歌声。彼女たちは、その歌声を今日も地域に響かせる。

50年の節目を迎え、再び新しい1歩を歩み出した。

10月26日に文化会館で開催された市民音楽祭で歌う様子。「みやこわすれ」と「愛の讃歌」の2曲を披露し、会場から大きな拍手が送られた



月3回文化会館のリハーサル室などで2時間の練習に励む。練習は、丹田に力を入れながら行う発声練習から始めパートごとや全体で声を合わせる



小林
小人

こばやしびと
Vol.132